



## オーストラリア短期留学 現地だより (16)



### ギンピー公共図書館 2019/7/31

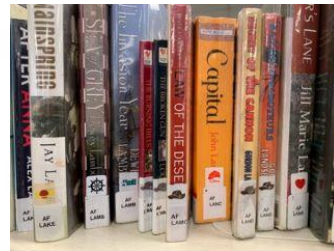
7月31日(水)に、引率の堀井教諭から Gympie の公共図書館についての情報が届きました。



こんにちは。  
 Gympie をあとにしましたが、一つ紹介したいと思った場所があるので、お送りします。  
 セントパトリックスカレッジから歩いて10分程のところにある **Gympie の公共図書館** を紹介します。  
 本の配架はどうなっているのかな…?日本の本はあるのかな…?ということが気になったので、放課後に行ってきました。  
 広さは千葉北高校の図書室より少し広いかなといったところでしょうか。  
 Gympie のこの図書館に入ってまず驚いたのが雰囲気です。日本の図書館というと静かにしなければならないところというイメージがあります。しかし、Gympie の図書館では全員が本を読んだり、勉強をしているわけではありません。刺繍をしている年配の方、チャットや電話をしている方、お菓子を食べている学生、図書館のパソコンでゲームをしている小学生くらいの子などがいて、図書館の至る所で笑い声も聞こえました。日本の図書館しか知らない私は、最初は違和感を覚えました。多くの人がいる様子を見て、図書館が Gympie の方たちにとって過ごしやすい憩いの場となっているのだらうと思いました。



入り口のデザインもカラフルなところがあたり、日本の図書館とは少し違います。



Gympie の図書館の分類の中で面白いと思ったのが、「quick read」という分類です。膨大な数の本の中から、時間がないときに読む本を探すのは困難です。そのため、「quick read」という分類は、限られた時間の中で自分が読みたい本と出会いやすくなる、良い分類だと思いました。

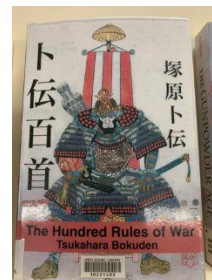


背表紙に貼ってある「ウェスタンハット」や「ハート」のシールが特徴的です。その本の内容がどういったものなのか一目で分かるようになっていきます。タイトルを見ても想像できないので、便利かもしれません。



図書館にあった、日本語の本です。表紙の若者は、赤いジャージを着ているのでしょうか。外国からみた日本の若者はこうなのか!

と驚きました。中のイラストの信号も日本に一般的にある信号と異なります。



Gympie の図書館で唯一見つけた翻訳された日本の本です。「ト伝百首」という本を聞いたことがあるでしょうか。私は、正直初めて知りました。戦国時代の塚原ト伝(つかはら ぼくでん)という日本の兵法家を書いた兵法書らしいです。

日本でも少し前に「世界の美しい図書館」という本が話題になりました。世界の図書館と比較してみると、またそこに置かれている日本の本を見ても面白い!と感じました。昨日のセントパトリックスカレッジでの最後の授業で、オーストラリアと日本の違うところを見てきましたが、生徒たちも2週間のプログラムを通して、その相違を感じたようです。他言語、他文化に触れることで生徒たちの視野も広がったと思います。

